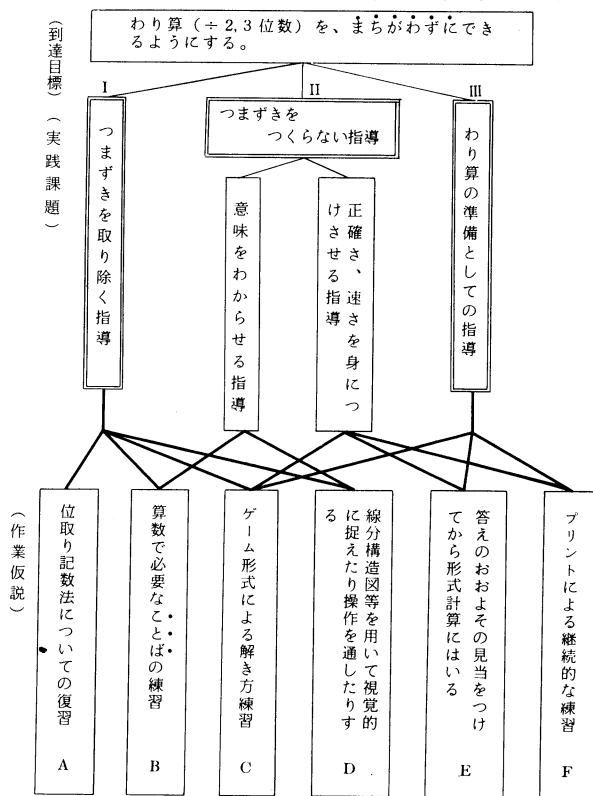




グループ学習をする児童たち(二本松南小)

資料Ⅰ 到達目標と実践課題、作業仮説



か  
課題Ⅱ  
これから指導するかけ算、わり算(一位数)で、つまづきをつくらぬようにするにはどうするか。  
課題Ⅲ  
わり算(÷二、三位数)の準備としてどんなことをしておけばよいか。  
そして、課題Ⅰに対しては主に四つの策をたて、Ⅱに対しては五つの策をⅢに対しては三つの策をたて、それらの策と「作業仮説」として位置づけて実践することにした。

(二) 仮説  
わり算を、単に四則の一つとしてとらえるのではなく、計算のまとめ(加減、乗の総合)としてとらえて、途中

の計算のつまづきを除くような対策をたてて段階的に指導すれば、わり算がよくできるようになるだろう。  
指導に当たっては、資料Ⅰのような方法によれば効果的であろう(作業仮説)  
(三) 対象  
昭和五十二年度三年生 四十名  
昭和五十三年度四年生 三十八名  
二年間継続担当学級である。  
(四) 指導形態  
課題Ⅰに対して……放課後等に個別または小集団による指導  
課題Ⅱ、Ⅲに対して……授業時間内での指導  
(五) 事前調査の結果から  
わり算のつまづきの傾向

五年生に、四年のわり算問題についてテストをし、つまづきの原因とその出現率を調べた。その結果、誤答の原因の第一は、かけ算の間違いであり、第二は、ひき算である。それらを合わせると三五%以上である。誤答の六割以上が三年までの内容であって、今更ながら、低・中学年の指導のたいせつさを感じた。  
(2) 担任学級の計算力の実態  
三年当初に計算力テストを実施した。その結果、一、二年の内容で既に半数以上の者がつまづいていることがわかった。そのつまづきの内容を一人一人について調べて整理し、対策をたてる資料とした。  
(六) 実践の概要

- (1) たし算のつまづきを取り除くために  
① 正十二面体のサイコロによるすごろく遊び(C、D)
- (2) 直観的な数図のドリル(C、D)
- (3) 位取り記数法と加法的表示(A、D)
- (4) 個別指導の中で言葉の練習、たし算に使われる助詞「と」「に」「を」「は」等についての具体的な操作(B、D)
- (5) 「I」の意味(D)
- (2) ひき算のつまづきを取り除くために  
① 正十二面体のサイコロによるすごろく遊び(C、D)  
② くり下がりが(D)  
③ 乱数表の利用(C)
- (3) かけ算でつまづかせないために  
① 数の分解のしかた(D)  
② どの「位」からかけるか(D)  
③ 筆算形式  
④ わり算の準備として
- ア、積のおおよその見当(E、F)  
イ、筆算形式によらない練習(E、F)
- (4) ウ、乱数表の利用(C)  
わり算(÷一位数)でつまづかせないために  
① 線分構造図を使って(D)  
② かけ算やひき算との関係  
③ ゲーム化により楽しく(C)  
④ わり算(÷二、三位数)の準備として
- ゲームを通して、「商をたてる↓かける↓ひく↓おろす」の四拍子